佐香神社

佐香神社は、初めて酒が醸造されたことを記念する神道の神社です。伝説によると、多くの神が近くの川の川岸に集まり、台所を建て、食べ物や飲み物、特に酒の準備を始め、酒宴を180日続けたということです。「佐香」という名前は、「酒」が語源となっており、今日でも神社の境内では酒が醸造されています。毎年10月13日には「どぶろく祭」と呼ばれる重要な行事が行われます。神主の長がどぶろく（精製前の酒）を醸造し、島根県全域の酒の醸造家が集まってそれを飲み、良い1年になることを祈ります。酒は米を発酵させることで作られます。佐香神社では発酵の神々が広く祀られており、そこには醤油の神も含まれます。世界での酒人気が高まるにつれて、佐香神社にも近年では海外からの参拝者が増え、特に10月のどぶろく祭りの日には外国人参拝者で賑わいます。

神に捧げる酒樽

この神社は丘の上に立っており、車でも行けますが、多くの参拝者は丘の麓の石の鳥居をくぐり、長い階段をあがって神社に行きます。小さな本殿には神主以外は入ることができません。無塗装の杉材で作られた本殿は、大社造と呼ばれる様式でできており、木の柱を用いた高床式になっています。本殿の前には「拝殿」と呼ばれる小さな礼拝堂があり、ここで参拝者が集まって儀式を行います。神主は本殿の扉に続く階段のある小さな次の間で儀式を行います。そこには伝統的な祭壇、提灯、神々を象徴する鏡、神への供物があり、特にこの神社の特徴である大樽の酒が奉納されています。境内には、伝染病の神を祀った「疫神社」と呼ばれる神社をはじめとする小さな神社がいくつかあります。